

北海道内の踏切事故は冬期に集中する傾向があります！

北海道における踏切事故は、冬期に多発する傾向があり、過去5年間の踏切事故21件中、13件(62%)が冬期間(12月～3月)に発生しています。踏切手前での一旦停止を確実に励行するとともに、路面状況に応じた自動車の安全運転が求められています。



北海道運輸局・北海道・北海道警察・JR北海道・J R貨物・バス協会  
ハイヤー協会・トラック協会・自家用自動車協会・道南いさりび鉄道

踏切事故を防ぐための4つの注意はこちる



## 飲酒運転を見たら、警察に通報しましょう！

北海道警察ホームページの飲酒運転情報専用メールボックス「飲酒運転ゼロボックス」を活用してください。



## ジャパンモビリティショーで全国のナンバー一堂に展示

自動車協会連合会  
全国板協議会

が紹介されている。大阪・関西万博と27年国際園芸博覧会の特別仕様デザインも展示。ナンバープレートの役割や要件、社会的機能などについても解説された。



飲んだら乗るな！

乗るなら飲むな！

△お問い合わせ  
北海道交通安全推進委員会  
電話 (011) 221-6666  
[\(https://www.slowly.or.jp/\)](https://www.slowly.or.jp/)

## 年末年始における飲酒運転の根絶

12月は飲酒運転根絶対策期間です

年末年始に向けて飲酒の機会が多くなると思いますが、「お酒を飲んだら、絶対に運転しない」。飲酒運転は、自分の人生だけでなく、多くの人々の人生を崩壊させます。「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」という規範意識を持ち一日酔い運転を含め、飲酒運転は絶対にやめましょう。

飲酒運転は、悪質で重大な犯罪です――

## 「ドライビング・ヘルス」の実証風景



トヨタ自動車が、運転能力シミュレーター「ドライビング・ヘルス」を用いた実証を一部の系列販売会社で始めた。名古屋大学と共同開発したもので「操作力」「リスク判断」「認知」「視野」の4項目で運転者の状態を推定し、運転能力を総合判定する。高齢ドライバーの事故が社内問題となる中、将来的な商品化を始めたデータはシミュレーターの改良版の図柄ナンバープレートに加え、特別仕様ナンバーも展示された。2022年7月から新たに追加された「十勝」「日光」「江戸川」「安曇野」「南信州」を含めた全国73地域の地方版図柄入りのデザインが紹介されている。大阪・関西万博と27年国際園芸博覧会の特別仕様デザインも展示。ナンバープレートの役割や要件、社会的機能などについても解説された。

## 車輪脱落事故防止へ街頭検査

北海道運輸局



北海道運輸局は10月24日、車輪脱落事故防止のための街頭点検を札幌市で実施した。脱輪事故の危険性が高まる冬タイヤへの交換時期に合わせて実施したものの、駐車中の大型トラック11台のホイール・ナットを確認。今回検査で緩みはなかった。

2022年10～26年2月を「車輪脱落事故防止キャンペーン」期間とし、啓発活動を強化している。街頭点検は、北海道トラック協会、自動車技術総合機構北海道検査部と連携して実施した。トラック運転手に車輪脱落事故についての周知、啓発を行ったほか、ホイール・ナットに緩みがないかをトルクレンチや点検ハンマーを使用して点検した。車輪脱落事故は、季節のタイヤ交換時期以降に発生する傾向が強くなる。同局では「正しい作業と定期的な点検により未然に防ぐことが可能」と呼び掛けている。

務付けなど対策を強化しているが、地方では公共交通機関が衰退している実態もある。トヨタの担当者は「判定結果がすべてではないが、運転免許返納の判断材料の一つにしてほしい。運転能力のある方には、長く乗り続けてほしい」と語った。



発行所

北海道自家用自動車協会連合会  
編集兼发行人 辻澤英隆  
電話 (011) 721-4578





テスラ  
寒冷地でのEV普及に本腰  
道内に初の拠点

テスラの展示、試乗拠点「テスラストア」の道内1号店が11月1日、札幌市中央区の大型商業施設、サツポロファクトリーでオープnedした。写真。来札したテスラジャパンの橋本理智社長は、北海道における電気自動車（EV）拡販の期待について、「寒冷地は難しいとの声はあるが、なんの懸念もない」と強調。今後、道内で充電拠点や展示、試乗拠点を増やしていく考えを示した。

道内初出店となった「テスラ札幌」は、国内25番目の拠点。サッポロファクトリーの一角にセダン「モデル3」とSUV「モデルY」を展示し、試乗車も用意した。スタッフが常駐し、商業施設に来店した客にテスラ車の魅力をアピールする。立ち上がりの週末は、2週先まで試乗予約が埋まったという。

テスラ札幌の開設を皮切りに道内でも充電拠点や試乗・展示拠点を増やしていく方針だ。橋本社長は「チャージングがあるところにはストアを設けたい」としており、すでに充電拠点「テスラスープヤーチャージャー」がある苫小牧市、函館市に新規出店する可能性がある。旭川市、帯広市などへの充電拠点設置も検討しているとみられる。アフターサービスは外部の事業者に委託する「認定施工ショップ」で対応する。

北海道では、ウェブサイトやSNS（交流サイト）などで地域特性に合わせた情報発信活動を展開し、寒冷地特有の不安を払しょくする戦略を進める。

テスラストアの出店で、新車販売道内のEV市場が広がるのか、関心

が高まる。自販連の統計によると、乗用車の1～9月道内EV販売台数は326台で、新車に占める割合は0・4%だった。全国の1・4%比べても低い状況にある。

国内メーカー系のディーラーもEV販売に力を入れ始めている。10月9日にEV専用車「bZ4X」を一部改良して発売したトヨタ系ディーラーは、試乗会などを積極的に開催し、EVの認知度向上、不安感払拭に向けた動きを活発化している。「



但しノイークの携行用はカドーリーを自作している。ウルトラライトなフォークとスプーンのセットを目指していく、前に白樺で手作りした経験はあるが金属素材は初めて。本革はチタンで作りたかったが、加工の難しさから厚さ1ミリメートルのマジンレス板を加工し鋭意制作中だ。

フォークは図面通りに切り出し曲げて完成となるが、スプーンは一箇縄では出来上がりらない。液体などをためる部分を「つぼ」と呼ぶそうだが、この形づくりが難儀で、削除加工だけでなく、平板から膨らませて板金加工が必要だからだ。まったく板金技術を駆使する板金工には頭が下がる。

ENEOS（エネオス）は、電動車（EV）とプラグインハイリッド車（PHV）ユーザー、ガリン車ユーザーを対象に、車選び際に重視した点や、ランニングコストの意識などについて調査した。結果、EVとPHVユーザーの半が「節約できている」と答えるが、節約への自己評価が高いこと分かった。ランニングコストの把度はガソリン車ユーザーが優勢でEV・PHVユーザーは“思い込節約”の傾向が強いことが浮かびがつたという。

今夏にインターネット経由で調し、800人から有効回答を得た車選びの際に、EVとPHVユーザーは車両価格やランニングコストという経済性を重視し、ガソリン車ユーザーは車両価格に加えて外観や

購入後の節約意識の自己評価  
「節約できている」と答えたのは  
Vユーザーが80・3%、PHVユーザーは  
66・7%とガソリン車ユーザーの54・3%を上回った。しかし毎月の燃料代や充電料金を実際に  
握っているユーザーは、ガソリン、ユーズー  
が74・3%と最も高く、ついでEVユーザーが  
65・7%で、P HVユーザーの把握度を示し、  
P HVユーザーは38・3%などとどまつた。  
EVとPHVユーザーに具体的な  
節約の行動を聞いたところ、EV用  
ユーザーでは「エコドライブを中心  
て運転している」が30・7%、P  
HVユーザーでは「特に意識してい  
い」が41・7%に上った。ランニング  
コストを下げるためには現状の

時代が変わり、不透明な未来を追い求めるよりも、1～2年先を見据えた現実路線のモデルが増えた。現実型といつてもそれは決して凡庸なものではなく、「これが本当に市販されるのか」と期待が高まるものばかりだ。1月には「ジャパンモビリティショールー札幌2026」が開催される。多くの人が会場に足を運び、未来的モビリティを体感する機会となつてほしい。

コスト意識の調査

EV／PHVユーザーと  
ガソリン車ユーザー対象に

視線

次は「運転道」を社会へ

檜舞台で君が代を流すのが夢だつた」。少年時代を思い出し、74年に果敢にルマンへ初出場すると、8年後の82年に悲願の24時間完走を果た

見して備えながら運転することです。先を読む思考力が養われるのはいいか。「左足ブレーキ」を使えば運

つもりはない。いつまでも走れる  
のは走りたい」と話す。少年のよ  
な飽くなき探究心で、クルマと運  
の可能性を探究し、世に問い合わせ

ユーザーのコスト把握率は、ガソリンより低い傾向があった。さらに、充電料金プランの見直

車に乗りこなす力が付かないまま、コストをさらに抑える機会を逃している現状が分かつた。

車で挑み続け、総合優勝の立役者となつた寺田陽次郎さん（78）は今年、レーシングドライバー生活60年の節目を迎えた。「ミスタークマノ」の次なる目標は、培ったスキルを「運転道」として社会に還元することだ。高齢者の重大事故が社会問題化する中、正しい運転が安全な交通社会を実現し、健康寿命を伸ばす道具にもなると考えている。寺田さんのこれまでのキャリアと、これららの目標を追つた。

■ロータリーに命をかけた半生

寺田さんは1947年に神戸市で生まれた。幼少期からクルマが好きで、小学3年生のころには自宅敷地

う。上京後、65年にレースデビュ－。マツダとの縁は、69年のマツダオート東京（現・関東マツダ）の入社まで遡る。同じ頃、ロータリーエンジン（RE）車を初めて運転し、伸びやかな加速感の虜となつた。「心のなかでバチンと何かが弾けた。これに命を掛けようと思った」。71年、マツダのRE車は当時国内外レースで無敵だった日産自動車「スカイライン」の50連勝を止める快挙を果たす。悲願を達成した寺田さんは一度は目標を失つたものの、同年公開された映画「栄光のル・マン」と主演のスティーブ・マックイーンに、心を奮い立たされた。「世界の

ステップアップし、91年には日本初の総合優勝を成し遂げた。 ■ルマンに挑戦し続け 92年のマツダの撤退後も、寺田さんはルマンに挑戦し続け、やがてフランスと日本の架け橋の役目を担うことになる。2003年には主催団体COの理事に就任。12年に発足した世界耐久選手権は、ルマンと並んで日本でのレースが毎年欠かさず開催されている。日仏の距離は50年前から着実に縮まったといえる。

車両の活性化につながるのではないか。サーキットでの経験に基づく仮説を立証することで、人々のウェルビーイング（心身の豊かさ）と安全運転に広くつなげることを目指している。

■引退せずいつまでも

富士スピードウェイ（静岡県小山町）で10月上旬に開かれた「マツダファンフェスタ2025」では、寺田さんの「レーシングドライバー60年を祝う会」も開かれ、集まった約80人が寺田さんとの交流を楽しんだ。翌日には寺田さんがドライブするルマン優勝車「787B」が快音を響かせて疾走した。

寺田さん自身は「決して引退す

「せっかく直しても他が壊れたら駄になるかも」とのこと。手に入らない具体的な部品の種類や費用も示され、今後のリスクをイメージやすかったこともあり、助言を受入れた◆いざ買い替えるにもハーフラグを抜いて連絡を：との警告表示が。購入から10年。そろそろかとは思っていたが、トラブルは空港やってきた◆ほぼ毎日動す、なければ困る家電だがメークの部品保有期間は6年。何とかならないかと修理を頼んだが、故障した部品は辛うじて残っていた◆これいと思想したが、再考を促された。うやら別の主要部品の欠品が多く、「せっかく直しても他が壊れたら駄になるかも」とのこと。手に入らない具体的な部品の種類や費用も示され、今後のリスクをイメージやすかったこともあり、助言を受入れた◆いざ買い替えるにもハーフ

の家電には「指定価格制度」が導入された。メーカーが在庫リスクを負う代わりに、値引きがない仕組みだ。どこの店でも同じ価格で公平だが、高くなつた印象は否めない。相手の出費でもあり、決めるには重きが要つた◆消費者の立場では厳しい制度だが、製造者は適切な利益を確保して将来投資に生かせる利点がある。自動車業界でも導入を目指す動きがあるようだ。ただ、値引きがない世界で勝ち残るには、技術や機能で競合他社に先行し続ける必要がある。日本企業の力を高める施策を打ち出せるのか、初会合を開いた政府の「日本成長戦略本部」の議論に注目したい。



「ファンフェスタ」では年、91年のルマン優勝車「87B」を走らせて いる（写年）の様子

昨 7 毎  
ない具体的な部品の種類や費用が示され、今後のリスクをイメー  
やすかつたこともあり、助言を  
入れた◆いざ買ひ替えるにも

ある。日本企業の力を高める施策を打ち出せるのか、初会合を開いた政府の「日本成長戦略本部」の議論に注目したい。